


委員会視察報告書

委員会名	文教厚生常任委員会
視察地	石川県小松市
調査項目	・小松市インクルーシブ教育システム構築モデル事業 ・交流及び共同学習「合理的配慮」事例集
調査目的	今年度の具体的研究テーマの一つである「インクルーシブ教育」について先進的な取組事例を調査・研究し、今後策定する提言書に反映させるため。
日時	令和5(2023)年11月1日(水) 10:00~12:00
場所	小松市立苗代小学校
調査概要	<p>●小松市インクルーシブ教育システム構築モデル事業</p> <p>小松市では平成25(2013)年から文部科学省委託事業として、インクルーシブ教育システム構築モデル事業～交流及び共同学習～を実施している。インクルーシブ教育システムとは、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、それぞれ個人に必要な『合理的配慮』が提供されることなどが必要とされている。このため特別支援学級、障害種別教室、通級指導教室などを通じ、様々なケースに対応できる取組を行っている。</p> <p>●交流及び共同学習『合理的配慮』事例集</p> <p>インクルーシブ教育システム構築に必要な『合理的配慮』について、交流授業や共同学習における事例をまとめた、交流及び共同学習『合理的配慮』事例集を発行している。事例はもとより、交流・共同学習のねらいやチェックシート、通常学級と特別支援学級の担当者による打合せ及び実践記録、児童生徒の記録などが含まれており有効に活用されている。</p>
視察の様子	 <p>苗代小学校にて</p>

質 疑 応 答	質問1 小松市が考える「インクルーシブ教育」と「特別支援教室」の違いは。
	回答1 違いとは捉えていない。インクルーシブ教育を進める一つとして特別支援教室があると考えている
	質問2 児童生徒、保護者及び地域への教育方針等の周知啓発方法は。
	回答2 小松市教育研究センター、小松市発達支援センターや児童発達支援センターにおいて児童生徒や保護者からの相談等の場において丁寧に説明し対応をしている。
	質問3 事業実施による学力の定着・向上の有無は。
	回答3 複雑な要素があるため一概には言えないため、インクルーシブ教育の成果の検証は難しいが、取組による成果はあるものと考えている。
	質問4 事業実施による障害のある児童生徒の現場での変化は。
回答4 実際に共同学習や通級指導教室の授業参観をさせていただいた。障害のある児童生徒は生き生きと学んでいた。	
質問5 個別の教育支援計画及び指導計画の詳細は。	
回答5 個別の指導計画においては、単元・学期・学年など短期的な視点で、具体的で細やかな計画を立てている。教育支援計画は、長期的な視点で在学時から卒業後まで考慮し、福祉・医療・労働などと連携した計画となるよう、保護者、本人とも共有し合意形成している。	
質問6 医療及び福祉分野との連携の詳細は。	
回答6 小松市教育研究センター（相談部）において、相談員（臨床心理士、元特別支援学校長、児童相談所長等）が専門的な教育相談や保護者面談を行っている。また土曜専門相談として、大学教授や小児科医が対応している。 このほか、小松市民病院・小松こども医療福祉センター、市ふれあい福祉課、子育て支援課とも連携を行っている。	
質問7 全児童生徒が「わかる」「できる」授業づくりの目標達成に対する評価、事業内容の検証は。	

	<p>回答7 計画訪問時に確認・評価・指導助言を行い、資質・能力の定着の確認や、交流及び共同学習における、狙い及び合理的配慮の確認を行っている。</p> <p>質問8 基礎的環境整備として授業におけるユニバーサルデザインの指導者への周知状況は。</p> <p>回答8 全ての教職員を対象とした、児童生徒理解講座などの研修を充実させ、ユニバーサルデザイン及び合理的配慮への意識の向上を図っている。</p>
委員会所感	<p>【春川敏浩】 学校教育における、特殊学級や通級指導教室、インクルーシブ教育といった県内初の取組が教育に資する根幹が見える。現在のように、支援を必要とする児童、生徒が多い中、エキスパートの再任用教員を配置することにより子どもたちの学習に対する姿勢、支援員との連携により、円滑な授業内容を確認できた。教職員を対象に、基礎的環境整備として授業におけるユニバーサルデザインの指導者への合理的配慮への意識向上を啓発しており、合理的配慮事例集を作成し、授業中に障がいのある児童生徒や配慮が必要な児童生徒への支援のあり方について具体的に事例をまとめてありとても良くできている。 本市においても、支援員の教育研修の内容、インクルーシブ教育の提言を広く公開し垣根のない教育支援を望む。</p> <p>【五位野和夫】 ・特別支援教育（個の障害、特性に応じた適正な学びの場・支援の提供）を充実させたものがインクルーシブ教育であり、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、「合理的配慮」が提供されることとの説明だったが、柏崎市においての定着はこれからの課題と感じた。 ・個々の人権に関わる視点での事業展開が必要と考える。 ・小松市では通訳1人も入れての支援体制が取られており、柏崎市においても外国語に対応する体制が必要を感じました。 ・インクルーシブ教育の推進は子どもたちの人間形成にとっても、自然に差別なく共に生きるという事につながっていくと思う。</p>

【上森茜】

苗代小学校内で説明を受け、実際のインクルーシブ教育の授業も視察させてもらった。外国籍の児童も多いようで日本語教師や通訳がいるとのことであった。一番印象に残ったのが指導補助員の雇用の仕方である。通常、夏休みは休暇、無報酬だが小松市は始業前の1週間をならしの教育としていること、また、夏休み中は指導補助員の研修を設けていることで雇用をし給与を支払うことにしている。学校が夏休み期間中、仕事がないことで指導補助員のなり手が少なくなることのないような配慮は柏崎市も進めていくべきだと思う。

【重野正毅】

小松市は国際交流が盛んで外国籍の児童も少なくないようで、参観させていただいた苗代小にも児童へ対応するための通訳や日本語指導員がいるとのことでした。授業中に児童と関わっていた教育補助員も外国の方でした。これだけを見てもインクルーシブを感じられました。ただ、授業としてはインクルーシブ教育を特別支援教育の発展形として捉えている感じを受けました。市教委の説明では、マイノリティの児童のことも考え、多様性を踏まえた教育活動に取り組んでいるとのことでしたので、今回、参観できなかった通常学級や中学校ではより意識したインクルーシブ教育に取り組んでいるのだろうと想像できました。その土地土地によりインクルーシブの捉えや現場での取組に差が生じている実態は仕方のないところだと思いますが、柏崎に生かせる場所として、指導補助員を外国の方に広げたり、合理的配慮に特化した研修を行うとか、取り入れていけると思いました。

【星野幸彦】

小松市は空港を有し、海に面し、陸路についても新幹線が開業と交通の要所であり、そのためか昔から外国籍の児童生徒が多いとのこと。そういった多様性を認める土壌からか早い段階からインクルーシブ教育に取り組んでいる。特別支援教育を充実させる事がインクルーシブ教育を進めることになるとのことであったが、特別支援教育と通常授業を切り離すことなく、交流授業や共同学習の場を通じて『合理的配慮』についても積極的に取り組んでいる。マイノリティや多様性に関しても多言語対応、通訳の配置など柏崎市においても参考となることが多く感

じられた。またインクルーシブ教育システムの一つとして「交流及び共同学習『合理的配慮』事例集」を作り啓発や実践に活用している。

こう言ったツールの整備についても非常に参考となった。

【西川弘美】

小松市は、石川県内でも早期から特別支援教育に取り組み、平成 25 (2013) 年からはインクルーシブ教育システム構築モデル事業が行われ、体制構築や人材育成がされていると感じた。また、国際空港があり、大手企業の外国人社員と家族がいて多様化しているため、地域としても自然に素地ができあがっている。学校と教育研究センター、発達支援センターが連携し、個々の事例やイベントを通して、相談しやすく、つなぐ体制が既になできあがっており、市民の安心感に寄与している。個別の教育支援計画や指導計画においても、本人や保護者の意思を尊重し、対応する支援者と合意形成を行いながら切れ目のない支援を行い、医療福祉分野とは家族状況を共有し、家族支援を行っていることは大事な部分と感じた。「合理的配慮」の事例集は、教職員育成に役立つ資料であり、今後も参考にさせていただきたい。

【三嶋崇史】

小松市は、石川県西南部に広がる自然豊かな加賀平野の中央に位置し、産業都市として発展した。令和 6 (2024) 年 3 月に北陸新幹線開業に向け小松駅前整備、発祥地の歌舞伎「勸進帳」を教育に取り込むなど地域活性化に力を入れている。文部科学省委託事業で平成 16 (2004) 年から 3 年間特別支援教育推進体制モデル事業、平成 25 (2013) 年から 3 年間インクルーシブ教育システム構築モデル事業に選ばれるなど特別支援教育にも力を入れている。一人一人の教育ニーズに応じた指導や支援に努め、発達支援センターや関係機関と連携して問題解決に取り組んでいる。支援員も充実し、外国人を起用するなどして語学支援にも対応している。会場となった苗代小学校は児童数が 500 人を超える学校で、教室、廊下などには教育に関する文字（新聞、学年の取組など）が貼り出されていた。児童玄関の靴の置き方、教室内のランドセル、ロッカーが整理整頓され、学ぶ環境が整えられた素晴らしい学校に感動を覚えた。